

# 関東ふれあいの道を歩く(1) 神奈川(①三浦・岩礁のみち)

2019年(H31)3月20日 池内淑皓

2019年(H31)3月9日(土)快晴の早春、潮回りも良く、関東ふれあいの道(首都圏自然歩道)第一回目は、神奈川県①である「三浦・岩礁の道」を歩いた。

このコースは、首都圏自然歩道協議会発行の地図によると、ゴールが宮川町バス停をゴールとする10.3km、3時間コースとなっているが、山と溪谷社のガイドブックによれば、城ヶ島に渡って島を一周しながら、城ヶ島のバス停をゴールとする17km(4:20)のコースとなっているので、この案内に従った(今後関東ふれあいの道コースは、原則歩き繋げる事を原則にコース選定を行う)



関東ふれあいの道(首都圏自然歩道)全図 (首都圏自然歩道連絡協議会刊)



関東ふれあいの道神奈川県の部分



(首都圏自然歩道連絡協議会刊)

関東ふれあいの道、神奈川(①三浦・岩礁の道) 松輪バス停～城ヶ島バス停



松輪→剣崎→江奈湾行程図



三浦海岸駅には8時前に着いた、朝の潮風が気持ち良い





剣崎方面のバスに乗り、松輪バス停で降りる



バス停前の交差点には、関東ふれあいの道の道標が道案内してくれる



松輪では三浦大根も終わり、今はキャベツが育てられている。





海岸地帯に出ると岩礁への道に繋がり、大浦湾にある「大浦山洞穴」を訪ねるが、朝未だ潮が高く、通行できず引き返す。



間口漁港



磯伝いに歩くと、剣崎灯台が見えてきた。





「剣崎」 神奈川の名勝 50 選の一つ



「矢の根井戸」 岩礁地帯から灯台に上る途中にある。  
保元の乱で敗れた源為頼は伊豆大島に流罪、大島から矢を射てここに落ち、水が湧き出たと伝える。



「剣崎灯台」

1871(明治4年)設置、対岸の房総半島洲崎の灯台と一対で、東京湾口を守る。  
高さ17m、光源48万カンデラの強さを誇る。

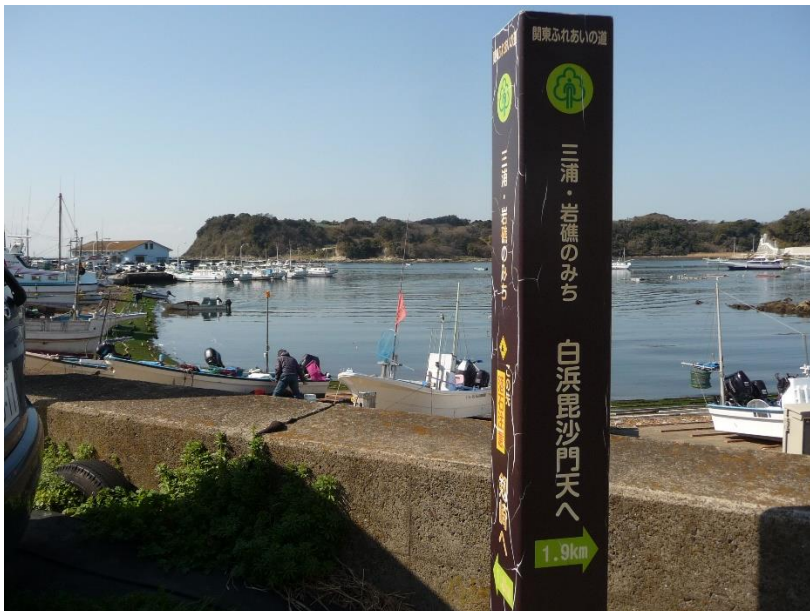


道はまた磯に降りて、岩礁地帯を歩く。  
道標には高潮、高波、満潮時は危険と表示がある。今日は大潮の終わった翌日、  
干潮は0:47で、これから潮が引く。



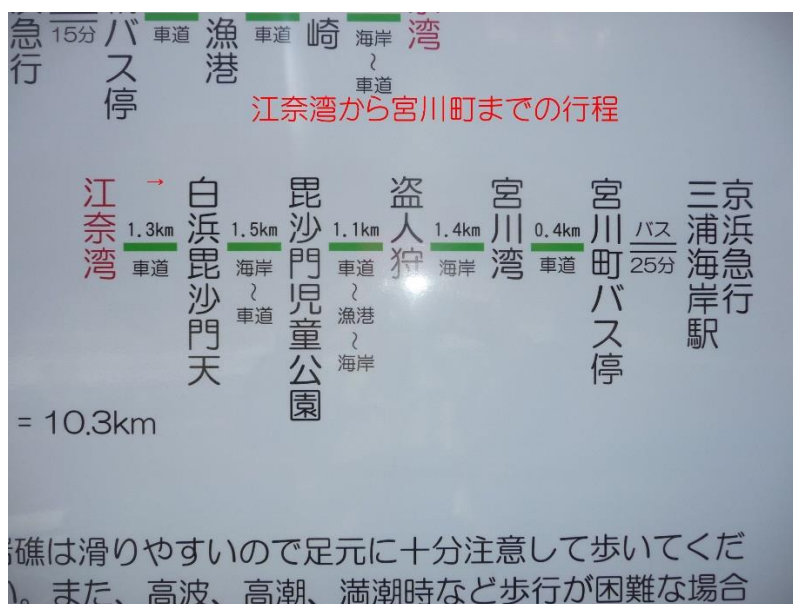
コースは崖の縁に沿ってあるが、道らしい道は無く、歩けそうなところを選んで歩く。  
三浦半島は太古の昔、太平洋の深海底に堆積した泥、礫による。  
50万年前海上に隆起し、三浦半島や、房総半島となった。





「江奈湾」

剣崎の岩礁地帯を歩くと一旦県道に出て、江奈湾沿いに歩き、また岩礁地帯に入って、毘沙門に向かう



江奈湾から宮川町までの行程図、



江奈湾口の石造り里程標、松輪から宮川町の中間にあたり、石造りの道標があった。  
松輪 5.9km—江奈湾—宮川町 5.1km(石の色を変えて距離を表示している)



### 「白浜毘沙門天」

江奈湾を離れて、毘沙門の半島に出る途中にある。  
持陽山慈雲寺毘沙門堂という。寺は応安元年(1368)妙謙和尚によって開基、毘沙門天は行基の作で、三浦七福神の一つ。



### 「毘沙門湾」





城ヶ島が見えてきた、今が丁度潮止まりか



伊豆半島が日本列島に衝突したエネルギーで、三浦半島は時計回りのように回転して現在の形となった。隆起は今も続いている。



「千畳敷」



毘沙門岩礁地帯の核心部、道がないので、歩ける部分を拾いながら歩く  
時間は 12 時、風もなく穏やかに通過できる、この辺りで潮風をおかずに、お弁当を広げよう



「盗人狩」

泥棒がここまで逃げてきて、岩にふさがれ“万事窮す”の場所。

岩礁地帯の切れ目。橋が架かるので安心だが、潮が満ちて、波があれば通行出来ない。



大正時代関東大震災の時、海岸線が数メートル隆起し、今の岩礁地帯となった。  
地質的には第三紀層に属する(新世紀 230 万年から 258 万年前を指す)

首都圏自然歩道連絡協議会編のコースは、ここから宮川町バス停がゴールであるが、山と溪谷社刊行のガイドブックによれば、更に岩礁地帯を歩き、通り矢の難所を過ぎ晴海町に出て、城ヶ島大橋を渡り、城ヶ島を一巡りして城ヶ島バス停がゴールとなっている。今回はこのコースを歩く。





### 「通り矢の難所」

橋桁は残ったが、渡り板が流されて橋の上は通れない。大潮、中潮の干潮時のみ飛び石伝いに歩ける。

通り矢とは、弘治2年(1556)房州の里見氏が、軍船80隻で三浦の北条氏を攻める。里見方の兵の矢がこの海峡を射通したので通り矢と名付けられた。

(宮川湾の駐車場のおばさんに尋ねると、親切に情報を教えてくれる)



宮川湾を抜けて、城ヶ島大橋の袂に取り付けられている急な階段を上り、橋の上に出る。



城ヶ島に渡ると道標も観光地らしく日本語、英語、中国語、韓国語で記述されてくる。関東ふれあいの道の道標は、宮川湾から先はない。



城ヶ島公園から見た、今日歩いてきた磯伝いの岩礁。右隅は剣崎灯台

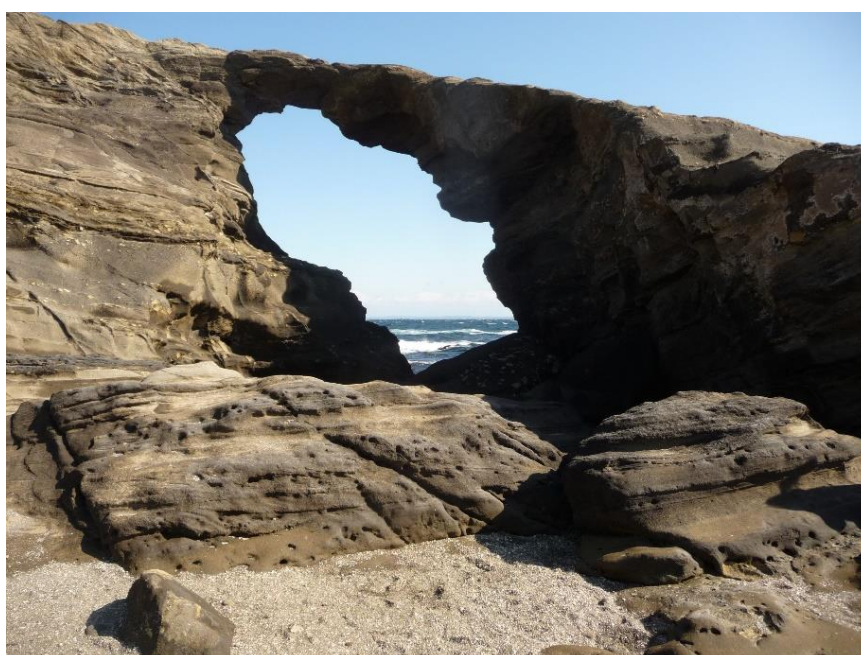




城ヶ島公園(安房崎)にて、記念に一枚パチリ。



尾根伝いに灯台に向かう



「馬の背洞門」

海蝕洞穴で、長い年月をかけて波浪により浸食されてできたもの。  
地層は第三紀、三浦層群に属し、土質は凝灰質砂礫岩の柔らかい岩で、明治時代から有名。



灯台を回り、お土産店を抜けるとバス停はすぐ。



15時城ヶ島バス停にゴール、バスを待つ観光客で一杯。24km、3万3千歩であった。

この項完

関東ふれあいの道(首都圏自然歩道)神奈川②油壺・入江の道に続く